



おおいたの 地域を担う ひとつづくり



VOL.1

「OJIC(オージック)」とは O:大分県 J:自治人材 I:育成 C:センター の通称です。

大分県内の自治体職員の皆さんから親しまれる職員研修機関として受け入れていただくため、当センターの活動内容やお知らせ等を掲載する広報誌「OJIC」を年3回(26年度は2回)刊行いたしますので、ご愛読よろしくお願い致します。

また、当センターのホームページ(<http://ojic.or.jp/>)にも研修計画やお知らせ等を随時掲載しておりますので、ご覧ください。

発刊によせて



大分県自治人材育成センターが本格的に活動を開始して、早6ヶ月余りが過ぎました。県職員と市町村職員の研修を公益財団法人に一元化するという全国的にも珍しい取り組みは、関係者の皆様のご理解・ご協力で、ここまで着実に進んでまいりました。改めて感謝申し上げます。

さて、今年度は研修一元化初年度ということで、とりわけ県職員と市町村職員の合同研修の充実に努め、その講座数を15講座から28講座に大幅に拡充しました。研修後のアンケートで受講者から、「刺激になって良かった。」や「他団体の職員を身近に感じるようになった。」といった意見が寄せられました。今年度から合同研修になった複式簿記基礎研修については、新たに受けられるようになった県職員の皆さんから予定を大きく上回る応募がありました。

また、新たな試みとして、いくつかの研修終了後に意見交換会を行いました。参加者には大変好評でしたし、もっと意見交換会を増やしてほし

大分県自治人材育成センター
会 長(佐伯市長)
西 嶋 泰 義



いという声もいただきました。その他の研修についても総じて好意的な意見が多く、これまでのところ研修一元化に対して職員の皆さんから前向きに評価いただいていると感じています。

まずは順調に船出した当センターですが、目指すところは、この広報誌のサブタイトル「おおいたの地域を担う ひとつづくり」です。

これから、当センターでは研修そのものの充実はもちろん、職員の皆さんにとって、身近で進んで研修を受けに行きたくするような施設でありたいと思っています。そのために、当センターのことを少しでも職員の皆さんに知っていただきたいと、広報誌「OJIC」を刊行することにしました。

どうか、この「OJIC」がお手元に届きましたら、しばし仕事の手を休めて、ぜひ目を通してください。そして、何かお気づきのことがありましたら、ご意見を当センターにお寄せください。お待ちしております。

県職員研修

県職員研修は、大分県人材育成方針に基づき、新採用職員研修、中堅職員研修等の階層別研修や選択制のキャリアアップ研修、また、新採用職員グループアドバイザー研修、新任班総括研修等の組織支援研修等を行っています。すでに終了した研修の内容をいくつかご紹介します。

県民の声を聴く講座

(各種階層別・組織支援研修)

階層別研修等で、県内で活躍するリーダーの方の講演を聴く機会を設けています。今年度は、大分県商工会議所連合会の姫野清高会長、佐伯市の高橋水産(株)の高橋治人代表取締役等に貴重なお話をいただきました。

新任監督者(係長級)研修では、別府市「ホテル白菊」の西田陽一社長から、「日本一のおんせん県おおいたの味も満載」という大分県観光の旗印を得ることで、官民一丸となった観光戦略が可能になったこと、また話題のおんせん県CMの撮影秘話等について、熱く講演いただきました。



新採用職員農業等現場体験研修

(階層別研修)

新採用職員を対象に、農業等の現場や人手不足で困難となっている集落の共同作業を体験させる研修を実施しています。今回は、トマト、カボス、椎茸、白ネギ等の定植、収穫、草取り、後片付けやヒオウギ貝の付着物除去作業体験、また、小規模集落応援隊の活動等を行い、延べ13カ所ですべて158人が参加しました。この研修では、直接、県民の声を聞き、作業の大変さを体験することで、地域及び現場の実情を理解し、県職員としての自覚と意識を高め、県民の思いや現場の声をしっかりと受け止める姿勢を



養うことを目的としています。受講者からは、「暑い中、ビニールハウスの中での肉体労働は過酷だったが、終わった後は達成感があった。」「農業で収入を得ることの大変さを実感した。」「少子高齢化・後継者不足を痛感した。」等の感想がありました。

炎天下の慣れない作業だったので、非常に疲れたと思いますが、現場でしか感じるこのできない問題や厳しさを肌で感じる事ができたのではないのでしょうか。

新採用職員を支える仕組み

(新採用職員指導担当者・新採用職員グループアドバイザー)

大分県では新採用職員を支える存在として、各職場には「指導担当者」、職場外には新採用職員5～6人に対して1人の「グループアドバイザー(以下、「GA」)」を置いています。指導担当者は、新採用職員の主に仕事面でのサポートを行い、GAは、仕事以外の生活面や人間関係等プライベートも含めた相談相手としての役割を担っています。

右の写真は、新採用職員研修(前期)での一コマ、新採用職員とGAの対面式の様子です。初対面ではじめは少し緊張感が漂いますが、この後、各GAが担当するグループ毎に分かれ自己紹介等を行っていくと会場も笑い声が出始めました。この日の夜は懇親会も行っています。

OJICでは、この指導担当者、GAの活動を支援するために年度当初にコーチング等の研修を行っています。

これからの大分県を担う若い職員の育成のため、機会があれば積極的にこの役にチャレンジしてはいかがでしょうか。



育児休業中も
研修が
受けられます!

今年度から、育児休業中の職員も希望により研修に参加できるようになりました。希望者には託児を手配するサービスを試行的に行っています。これまで、階層別研修やキャリアアップ研修で利用されており、また、県人事課主催の「女性職員交流セミナー」でも10人のお子さんがお母さんと一緒にOJICを訪れ、とても賑やかな託児会場となりました。

市町村職員研修

～平成26年度 新採用職員研修(前期)「首長講話」～

本年4月に行われた、「新採用職員研修(前期)」において、3名の市長より公務員としての心構えや社会人としての在り方等について講話をいただきました。

1班

ワンフォーオール・オールフォーワン



津久見市長
吉本 幸司

ラグビーの言葉の中に『『ノーサイド』試合が終わったら、敵味方なく仲良くやりましょう』という有名な言葉がありますが、もう一つ、『『ワンフォーオール・オールフォーワン』一人はみんなのために、みんなは一人のために』という言葉があります。皆さんが、これから仕事をしていく上で、い

ろんなことを選択する場面に出会うと思います。しかし、安易な方法を選ばないでください。失敗を恐れず、困難だけど、自分が正しいと思うことを選んでやってください。もし、それで失敗したら、素直にごめんなさいと言える勇気と、それをどう善処するかということが大切なのです。

自分でその方法が分からなかったら上司や先輩を頼って一緒に考えてもらえばいいのです。人間は、自分一人では何もできません。必ず人の助けがいります。助けてもらうためには、やはり自分を助け、相手を助けなければいけないのです。お互いにコミュニケーションを取ることによって助け合い、よい仕事、よい地域を作りあげていくことが大切なのです。「ワンフォーオール・オールフォーワン」厳しい時代ですが皆さんお互いにコミュニケーションを取り、助け合って、よい公務員になってください。

2班

コミュニケーション力アップは 実は飲み会にあり



由布市長
首藤 奉文

皆さんは市民から安定した職場でいいな、と少なからず思われています。そのことに対して、将来、皆さんは、堂々と「私は、しっかり仕事をしています。」と答えることができる職員にならなければいけません。

そのためにはまず、仕事の法的な根拠、更に仕事の目的をしっかりと把握すること、次にプロ意識を持ち、誰にも負

けない知識や技術力を習得することが基本となります。

あと一つ、コミュニケーション能力を身に付けてください。思いやりの心と、誠実な気持ちを持って相手に対して言葉を発することができる能力です。この能力を持ち合わせれば、一見難しそうの方とも打ち解けることができます。そして市民の思いを仕事に活かし、皆さんが企画しお願いする事業にはきつとよい返事がいただけるでしょう。

では、どうすれば身に付けることができると思いますか。お酒を飲んでください。こんなことをアドバイスするのは僕だけかもしれませんが。先輩や友達とお酒を飲み、お互いの気持ちを、腹を割って話す。その中で日ごろ話してもらえないようなこともきちんと聞いて、そして自分の糧にしていく、そうした心がけの積み上げが、将来、皆さんが堂々と「私は、しっかり仕事をしています。」と言える自信へと繋がることを私の経験を通してお伝えします。

3班

自覚者が責任者



杵築市長
永松 悟

職場で仕事を覚えるということは、人から知恵をもらうこともできますが、自分を書いたり、読んだり、メモすることで一つずつ理解できるものだと思います。今は、ネットで検索すると、すぐ一通りのことは分かりますが、やはり事例に一つ一つ当たりながら自分の頭で考え、繰り返しそれを

見ることによって理解でき、その上で回答と照らし合わせ、一つの課題を多面的、多角的に見られるようになるのではないかと思います。

こうした中で、私が肝に銘じていることは、「自覚者が責任者」、おかしいと思ったあなたが責任者ですよということです。国が、県が、法律が悪い、それは俺の仕事じゃないから関係ないではなく、世の中の動きに敏感、もっと言うと、市町村の住民にとっての苦痛を敏感に、肌感覚で分かるような、そんな職員がいたら、住民としては非常にうれしいと思います。自分ならできるかもしれないという人たちが市役所の中に、町村役場の中に増えていくと全く見違える職場になります。今日はこれぐらいでしょうがない。でも明日は、もうちょっと良くなるというかたちで、ぜひ、プラス思考に変えて頑張ってください。

合同研修

OJICが開所した今年度は、県職員と市町村職員の合同研修を昨年度の15講座から28講座に拡充し、県職員と市町村職員が共に学ぶ機会がますます増えています。
受講者から好評をいただいている講座をピックアップしてご紹介します。

リスクマネジメント講座Ⅱ

課長補佐級を対象とした研修で、講師は、田中危機管理広報事務所の田中正博氏をお呼びしています。

この研修では、講師があらかじめ設定した「不祥事」「災害」等の事例に沿って、実際に「模擬記者会見」を受講者で行います。今年度の研修(7月と10月に実施)では、「個人情報が入ったHDの紛失」、「指定管理施設でエレベータに人が閉じ込められた」という事例が与えられ、受講者は記者側、行政側に分かれて模擬記者会見を行いました。この記者会見は研修とは言え、本番さながらの緊迫感の中、やりとりが行われます。さらに、この様子をビデオカメラで撮影し、録画したものを後で全員で確認しながら、講師の的確なアドバイスをもらいますので、記者会見での応答ノウハウ、やってはいけない所作等を実践的に、また、視覚的に学ぶことができます。研修後、受講者からは、「実践型の研修で勉強になった。」「これまで受けた研修でトップクラスの研修だった。」との感想がありました。



複式簿記基礎研修・公会計基礎研修

地方財政健全化法や新地方公会計制度の導入等により、これからの自治体職員に求められる複式簿記及び公会計の基礎知識を習得するため、「複式簿記と公会計基礎研修」として市町村職員を対象に1日の日程で実施してきました。実務的にも注目度が高く、受講希望者が多いため、平成25年度は「複式簿記基礎研修」と「公会計基礎研修」に分けて各1日研修として実施し、延べ177名が参加しました。



平成26年度は、研修一元化に伴い、県職員と市町村職員の合同研修として6月12日・13日に第1班の研修を実施しました。研修内容としては、簿記用語等の説明や基本的な考え方の講義を経て、貸借対照表の作成やグループ演習を行うなど、受講者の満足度・理解度共に高く全体的に高い評価をいただきました。

本年度は12月に第2班の実施を予定しておりますので、第1班を受講できなかった方や複式簿記や公会計に興味を持っている方の積極的な参加をお願いします。

TOPICS トピックス

センターの研修室を利用できます！

研修が入っていない日等、研修室が空いている場合は、研修室をお貸ししています。大ホール(210名収容)や96人収容の研修室等計6室の研修室があります。「研修・学習会であること」等利用にはいくつか条件がありますが、詳しくはOJICまでお問い合わせください。

研修教材・図書の貸出しを行っています

研修教材(DVD・ビデオ)の貸出しを行っています。「公務員倫理」「接遇」「セクハラ・パワハラ」等職場研修で使える教材を取り揃えています。詳しくはOJICホームページをご覧ください。

また、図書室には研修講師の著書からビジネス本、自己啓発本等の蔵書があります。お越しの際はぜひ図書室を覗いてみてください。貸出し(期間:3週間)も行っています。

意見交換会にもご参加ください

合同研修・市町村研修では、研修後、意見交換会を開催している研修もあります。他団体の職員と膝を突き合わせて飲み交わし、コミュニケーションの非常に貴重な機会です。皆さん、ぜひ積極的にご参加ください！



今後の主な研修のお知らせ

【合同研修】

- ◆ハードクレーム対応研修
平成26年12月11日(木)～12日(金)
- ◆複式簿記基礎研修
平成26年12月17日(水)
- ◆公会計基礎研修
平成26年12月18日(木)
- ◆条例等立案改廃研修
平成27年1月15日(木)～16日(金)

【市町村職員】

- ◆契約事務研修(法務実務)
平成26年11月13日(木)～14日(金)
- ◆事務処理マニュアル作成研修
平成26年12月2日(火)
- ◆接遇研修指導者養成研修
平成27年1月21日(水)～23日(金)
- ◆OJTインストラクター養成研修
平成27年1月29日(木)～30日(金)